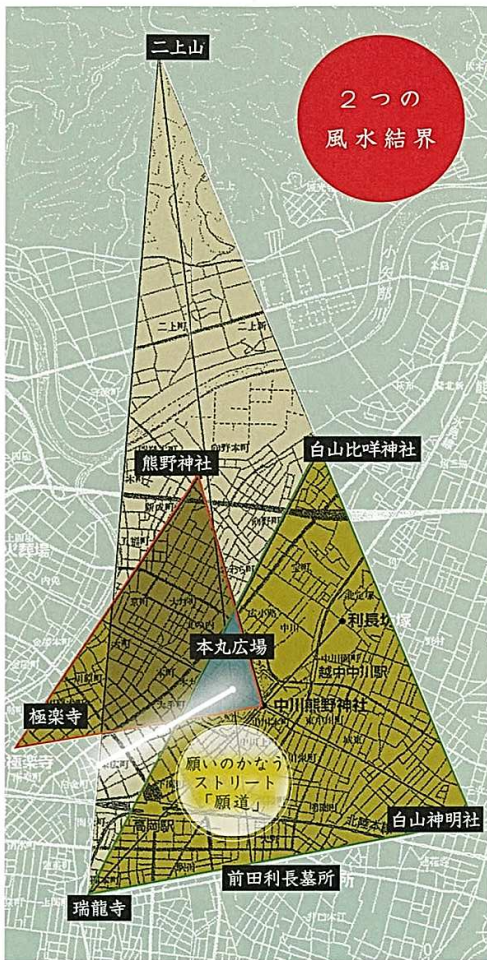


願道手引き

一つの願いを持ち「願道」を歩く。
三つの印を集め、三つの縁を結ぶとき、風水の加護が宿る。



四神相慮の好立地+風水

江戸初期の風水では、重要ポイントを南北軸に設定する。陰陽道の権威を独占する土御門家においても、四神相慮の要件として、南北に長く、東西は短く、しかも北が高い土地を、繁栄する吉相と考えていた。高岡の城下町は、この南北軸を設定するに当たり、北に二上山を置いた。そして軸を南に延長させたところ、すなわち大三角形の一边、瑞龍寺と白山神明社を貫通するラインの交点に、利長の墓所をおき、その守護を置く礎としたのである。この南北軸によって、高岡はいよいよ、前田入府以前の領主が住んだ、二上山守山城と、新しい領主前田利長との連合により繁栄をめざす町をして、運命づけられるようになった。

二上山を、風水パワーの源に、城下町つくり。

- ▲の頂点(北)は、二上山に発し、南西端に瑞龍寺、南東端に白山神明を配した長三角形を形成する。
- ▲二上山は、高岡市の祖山であり、市から見ると北方角に正しく位置している。
- ▲白山信仰は、金沢あたりを中心に進展した豊饒と豊作を祈る霊力。
- ▲瑞龍寺の本尊は、仏ではなく、この町を築いた二代藩主、前田利長である。

四神相慮の好立地。

さらに、2つの霊的加護をもつ風水の結界で、高岡城本丸を守る。

- ▲龍脈パワー。
二上山を修行しないうし、霊場としてきたのが、熊野修験だった。その熊野信仰の拠点によって閉まれている地域を、二上山の龍脈パワーで守ろうという風水仕法と考えられる。同時に、これは加賀前田以前に成立した古い修験による霊的パワーなのである。
- ▲死、黄泉の世界を現すシンボリックな縄張り。
二上山と、熊野をシンボルとした小三角形は、死者(すなわち高岡城を建てた藩主)を守る縄張りといえる。小三角形の一端を担う極楽寺は、二上山にあった浄土宗の寺を、高岡に移築したものである。

「願道」とは

高岡大仏・高岡関野神社・射水神社の3つの縁を繋ぐルートで、願いのかなうストリート「願道」と呼びます。

願道の歩き方

- わろんが・木田芳香園、もしくは下記3名所内にて、鑑札(500円)を購入する。
- 回り順は自由に3名所を回り鑑札の後面にスタンプを押して頂く。
- 華桜鑑札奉納場にて鑑札を奉納し、願いを掛ける。
- 鑑札は七夕で願いをかけた後に、神社にて焚き上げを行う。

3つの名所で縁を結ぶ、願いのかなうストリート

射水神社

射水神社(いみずじんじや)は、富山県高岡市の高岡古城公園内にある神社である。射水神社の祭神「瓊瓊杵尊(ににぎのみこと)」は、伊勢神宮に祀られる天照大神の孫神様。「二上山」とも称され、稲作文化を日本全土に広めたという経緯から、五穀豊穡や商売繁栄の守り神として人々に崇められています。

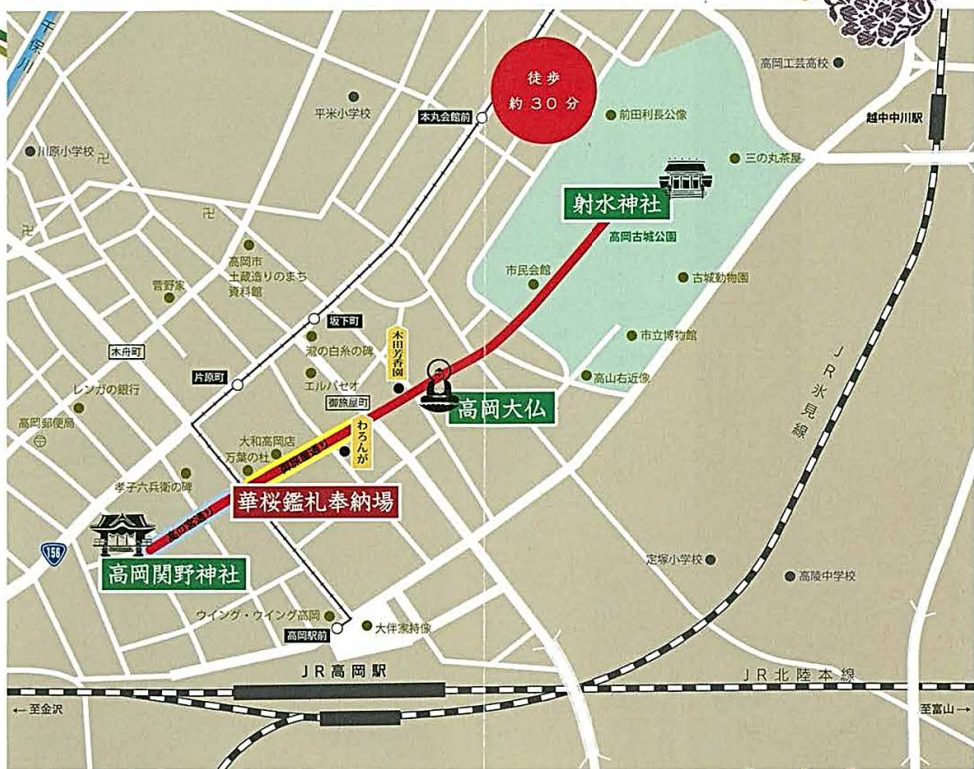
高岡大仏

高岡大仏は高岡彫刻の職人の技術の結晶とも言えるもので、高岡市の象徴的な観光地となっており、高岡市指定有形文化財に指定されている。奈良の大仏、鎌倉大仏に次ぎ、日本三大大仏に挙げられることもある。また、1933年、歌人の与謝野晶子が高岡を訪れた際に、高岡大仏を「鎌倉大仏より一段と美男」と評したとも伝わり、端正な顔立ちの大仏とも言われる。

高岡関野神社

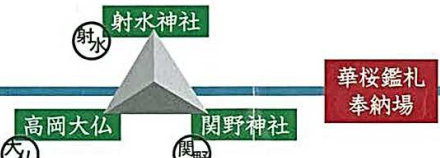
高岡の人々は、関野神社のことを「高の宮」と呼んで親しんでいます。毎年5月1日に行われる高岡御神山祭はその関野神社のお祭りであり、「御神山」を呼ぶ「高」の字が高岡の市街地を巡る。高岡のまちを囲んだ「前田利長」そして、前田家の先祖である「宮原道真」も御神として祭られていることが知られている。

願いのかなうストリート MAP



鑑札購入場所

- ◆ 射水神社
- ◆ 高岡大仏
- ◆ 高岡関野神社
- ◆ わろんが
- ◆ 木田芳香園



鑑札は七夕で願いをかけた後に、神社にて焚き上げを行います。

※場所は上記地図にてご確認ください。

※掲載内容は、2011年当時の情報です。現在の情報と異なる場合がありますのでご注意ください。